

西小は 大きな 家族

Family

～校長のたわいもない独り言～

平成 31 年 2 月 4 日 (月) No.49

発行人

お赤飯の豆は絶対に甘納豆がいい
の川崎先生。トマトにも砂糖(^_^)

◇おでこの傷◇

朝、何人かの子どもたちが川崎のおでこをまじまじと見つめる。「大丈夫ですか？」えっえっ？あ、この傷のこと？確かに血がにじんでいます。これはね、家で床に落ちたペンを拾おうとして、机の角にぶつけてできた傷です。結構激しくぶつけたので確かに痛いです。

川崎は結構おっちょこちょいです。ものを慌ててやろうとします。その結果、ぶつける、落とす、壊す、転ぶ、傷つける、流血するは、日常茶飯事です。貧乏性なので、例えば時計を傷つけるとか、服が破けるとかはすごく悲しくなりますが、体の傷はほとんど気になりません。なぜか？治るからです。血なんか出たって舐めてれば止まります。擦りむいたって赤チン塗っとけば大丈夫です（最近赤チンて無いですね(^_^)）。ヨーチンもすでに死語ですね(^_^)。おでこの傷もぜんぜん気になりません。はい。

◇寒波が身に沁みる◇

そういう年齢ですね。20代の頃は、どんなに寒くても3枚しか着たことが無かった（半袖Tシャツ、ジャージ、薄いウインドブレーカー）けど、今はヒートテック系の下着にダウンは欠かせない。年取ったな、くっ(T_T)。おまけに、朝立っている校門前は見事に日陰。夏は日差しが遮られて快適なんだけど、冬は凍える。お日様のありがたみが実感できる。

でも毎朝の子どもたちの姿、声、しぐさに笑顔になれる。表も裏もなく、純粹そのものの姿。ジャンケン勝って喜び、負けると“グシュン”となる。気温が高いと足取り軽く、凍てつく寒さだと下を向いてやってくる。何かいいことあった日の朝は満面の笑顔。逆の日はあいさつも小声。本当にわかりやすいから純粹にかわいい。

◇ある日の朝・・・◇

北風がとても冷たいある日の朝、手袋をせずに登校する女の子がいる。手袋しなくて手が冷たくない？の問いかけに、握っていた手を開く。そこには小さな石が。???。これがカイロの代わりだという。握っているとあたたかいという。へえ～、そうなんだ(*^。^*)

◇5年生授業参観＝親子バレーボール大会（1/31木）◇

いやあ、お母さん方、マジっすね(^_^)。確かに相手が自分の息子や娘だろうが、敵は敵ですものね。そりゃあスパイクも打ち込みますよね。子どもなんぞに負けたくないですもんね。わかります、わかります。

でもなんだろう、このほのぼの感は。きっとナイスプレイに笑顔、失敗しても笑顔。そんな笑顔があられる試合だからでしょうね。真剣だけど楽しくて、失敗しても楽しくて、応援も楽しくて、そんな温かい雰囲気でした（見る方は楽しくても寒いっすけどね）。

親子で対戦なんてそうあるわけじゃないですよ。自分も振り返ると同じように小学校の授業参観でのバレーだけです。後にも先にもこれだけ。懐かしく思い出されました。いやあ、それにしてもマジな闘いでした。真剣だからこそ楽しいんですよね。あーっ、嫌な思い出も……。娘の小学校の運動会でマジになりすぎて、転んで擦りむいて保健室にお世話になった……。当時の校長先生に心配されました。はい。皆様もケガしないように……。